

創刊の辞

成蹊学園サステナビリティ教育研究センターは2018年4月1日に開設された。成蹊学園の栽培活動、気象観測に代表されるような理化学教育、そして、国際交流や環境や人権といった幅広い視野で行われてきた教育が、いま、全世界規模で持続発展教育（ESD：Education for Sustainable Development）として求められている。持続可能な未来のために、ESDで「育みたい」といわれている価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）は、成蹊学園の建学の理念に通じ、ESDを推奨するユネスコの理念と成蹊の理念のルーツが繋がっているとさえ感じさせる。

成蹊学園内の「未来に向けた活動」は、優等生的な堅苦しいものではなく、誰かにいわれて行っているものでもない。あたりまえのように100年間行われてきたものである。そして、楽しく、知的好奇心をくすぐる活動が多い。サステナビリティ教育研究センターは、成蹊らしい、明るく、楽しく、知的で、未来につながる活動を、みんなで共有・意識して広げていくことを目指して開設された。「知的好奇心でつながる」を合言葉に、学園内の学校、児童、生徒、学生、教職員だけでなく、活動をご一緒くださる地域、組織、企業、学校、そして、海外にも、そのネットワークを広げていくのである。

本紀要は、そういった思いが詰まった内容が掲載されていく。これまでの歴史を語るときもあれば、未来をも語り、そして、今の活動や思いを残していく。いろいろな活動や原稿や作品を貴重なデータ（史料）として残していくのである。この紀要が何年分か並ぶことを想像すると、あらたな期待と楽しい気持ちがあふれてくる。

本紀要が、多くの方の原稿や作品や思いで埋め尽くされることを心から願うとともに、その内容が、読者の思いに通じ、たとえわずかであっても、読者の未来に素敵な影響を及ぼすことがあれば幸いである。

2019年10月1日

成蹊学園・成蹊大学サステナビリティ教育研究センター所長

池上 敦子

(成蹊大学理工学部教授)